

静岡

三島商工会議所では、日本商工会議所の補助事業である「全国展開プロジェクト」の採択を受け、新たな特産品づくりと観光商品づくりを目的に「新四ツ辻文化の街・三島 温故創新プロジェクト」に取り組んでいる。

三島市は、静岡県東部の富士箱根の玄関口に位置し、奈良・平安時代には伊豆国の中心として国府が置かれ、江戸時代に東海道五十三次の一つ「三島宿」として大いににぎわった。さらには、東海道のみならず、下田街道や甲州街道などいくつかの街道が交わる人、物、情報の拠点として、歴史や伝統文化が集積する街である。

昭和44年の新幹線三島駅の開設以降は、伊豆・北駿の交通の結節点として東部の中枢都市に発展し、首都圏や伊豆地方へ向かう交通の要衝として、きわめて重要な役割を担っている。

そんな中、様々な団体や事業者が、箱根西麓三島野菜のひとつである特産の馬鈴薯を利用した三島コロッケ、コロッケパンなどの商品づくりに取り組んでいるものの、それに続く発信力を持つ三島ブランドの確立と今後の交流人口の増大に対応した競争力ある特産品や観光メニューの開発までにはいたっていない。

発信力と競争力ある 三島ブランドの創出に向け

そこで三島商工会議所では、諸街道が交差する三島の『四ツ辻文化』にまつわる物産資源と観光資源の2つの側面を調査して、独自の伝統文化を活かした資源の磨き上げと、ストーリー付けの手法を研究する体制づくりを行い、発信力と競争力ある特産品づくりと観光商品づくりに取り組む「新四ツ辻文化の街・三島 温故創新プロジェクト」をこの度立ち上げた。プロジェクトの実行委員には、有識者をはじめ、観光開発の専門家、地元商店主など地元のキーパーソンを集め、検討会を実施している。

一例をあげると、三島出身の人形作家である野口三四郎が創作した人形「三四呂人形」を活かした土産品づくりがある。和紙を重ね貼りしてできている三四呂人形は、淡い色彩とあたたかみのある素朴な姿で、愛らしい童話の世界を作りだす。作品は紙と糊でできているため、現存する作品は数少なくっている。

この三四呂人形を、最新の3Dプリンターを活用する事で、作品に影響を与える事なくデータ化する事が可能である。これにより、歴史ある作品に忠実な形で、現在のマーケティングに合わせた新たな商品化の道が開けてきた。

また、観光開発のひとつとして、伊豆箱根地域が首都圏からは一体的にとらえられていること、世界文化遺産に登録された富士山に続き、三島市にゆかりの深い伊豆代官・江川坦庵に関係する葦山反射炉(伊豆の国市)が明治日本の産業革命遺産の構成資産のひとつとして、世界文化遺産に登録され、三島市は伊豆観光のゲートタウンとしての必要性が増すことから、伊豆と箱根、富士を結ぶ街道の活用や三嶋大社等の歴史的観光スポットを活かした三島ならではのツアー連携などが検討されている。

これらを踏まえ、神奈川県小田原市への歴史的なりわいをテーマにしたまち歩き型ツーリズムの仕掛けづくりに学ぶ先進地視察研修や、三島の物産品についてのモニタリングを兼ねた日本橋『日本百街道展 2015』へ出展し、首都圏をターゲットとした商品づくりの参考とした。

この様に、歴史資源や地域資源を見つめなおし、現在の地域をとりまく環境と必要性を考慮した特産品、観光商品の開発を積極的に推進する取り組みが、地域経済の活性化に繋がることを期待したい。



「日本百街道展2015」におけるモニタリング